

緊急消防援助隊情報

緊急消防援助隊車両（都道府県指揮隊車）の配備について

応急対策室

1. はじめに

緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、国内で発生した地震等の大規模災害時における全国の消防機関相互による迅速な援助体制として、平成7年6月に創設されました。消防庁では、平成15年の消防組織法改正により緊急消防援助隊を法制化したほか、部隊の編成及び出動計画等を定めた基本計画に基づき、車両及び資機材の充実強化を進めているところです。今回は平成23年度第一次補正予算を活用し配備予定の都道府県指揮隊車について、その概要をご紹介します。

2. 都道府県指揮隊車について

この車両は、緊急消防援助隊が出動する大規模災害時において、派遣される都道府県隊の活動指揮を行う、いわゆるコントロールタワーとなる車両です。東日本大震災の検証を踏まえ、情報収集・分析に必要な各種情報ツールを積載するとともに、各隊の応援活動に必要な各種資機材を積載し効率的・効果的な消防応援活動を行うことを目的として、全国に45台（資機材については46式）を



都道府県指揮隊車外観

配備することとしております。

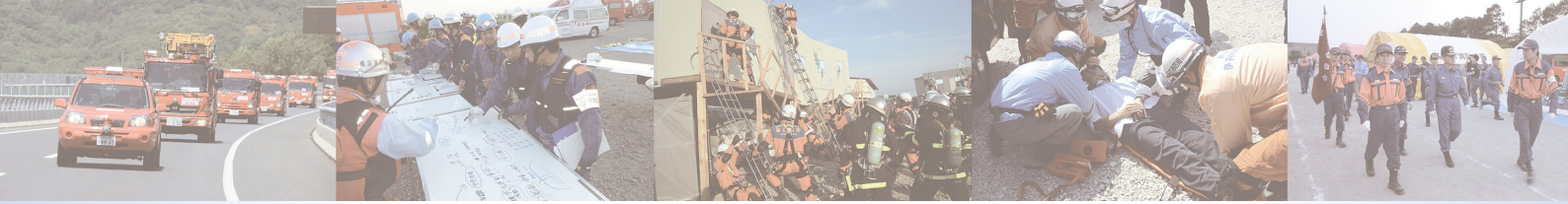
車両の主な特徴としては、移動式指揮台、クイックテント及びバルーンライト等の現場指揮本部設置資機材を積載するとともに、防水防塵型デジタルカメラ（5台）、パソコン（3台）、プリンタ（2台）及びスキャナー（1台）等の機器を積載するなど、情報収集・分析に必要な資機材を積載しております。また、当該車両に平成24年6月に更新配備予定の緊急消防援助隊動態情報システムを設定することで、移動時においてもインターネットにアクセスすることが可能となるなど、情報収集・伝達機



車両後方からの外観



車両積載資機材等



後部座席に資機材を配置した状態



積載資機材（詳細）

能の強化を図ることが可能となっております。

また、都道府県隊小隊長用のベスト（30着）や特定小電力トランシーバー（30台）、ポータブルカーナビ（10台）、出動表示用マグネットシート（20セット）等の応援活動時に都道府県隊として活動するのに必要な資機材を所要の個数積載することとしております。

都道府県指揮隊車は、平成24年度半ばまでの配備完了を目指し、現在、鋭意製作しているところです。



車両後方積載状況

3. おわりに

緊急消防援助隊はその創設以来16年以上が経過し、幾多の出動事例においてその機能を発揮してきましたが、各種災害に的確に対応するため、更なる充実強化を目指していかなくてはなりません。

消防庁においては、今後とも各消防機関、都道府県及び市町村の協力の下、ハード・ソフトの両面において緊急消防援助隊の機能向上のため、総合的に取り組んでまいります。



都道府県隊小隊長用ベスト



都道府県隊小隊長用ベスト(裏面)

都道府県指揮隊車	
【車両の主要寸法等】	
全長	5,380mm
全幅	1,880mm
全高	2,550mm
総排気量	2,693cc
駆動方式	四輪駆動方式
乗車定員	8人
エンジン種類	水冷4サイクルガソリンエンジン
【主な装備・積載品一覧】	
移動式指揮機	1台
無線装置 (150MHz)	2式
バルーン型投光器	3式
発電機等	1式
太陽光発電システム	1式
アルミクイックテント	1式
ポータブルカーナビ	10台
ノートパソコン	3台
プリンター	2台
スキャナー	1台
デジタルカメラ	5台
デジタルビデオカメラ	1台
トランシーバー	30台
県隊用ベスト	30着
HIDハンディライト	2式
隊表示マグネットシート	20セット